

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470200991		
法人名	医療法人社団 春日会		
事業所名	グループホーム愛・愛(2F)		
所在地	別府市照波園町14番28号		
自己評価作成日	平成23年11月11日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当事業所は、病院に併設しており、日常の健康管理と急変時の対応など病院スタッフと密に連携を取っている。入居を希望される方や家族より「病院が隣接しているので安心」と評価されています。
 ・学習療法を取り入れており、脳機能の改善、個別のコミュニケーションの場となっている。
 ・地域との繋がりや季節を感じて生活を豊かに出来るよう全員が定期的に外出が出来る機会を作っている。
 ・音楽療法士に来てもらい、週二回昔懐かしい歌や童謡等を皆さんで唄ったり、楽器に触れて演奏を行っている。
 ・理学療法士が週一回一人一人身体状態を把握して、転倒予防・下肢筋力低下防止に取り組んでおり、体操や運動の指導をしている。
 ・共用型のデイサービスを行っており、入居されている方だけの関わりでなく、友人のような関係が出来ていて、レクリエーションや会話されて楽しく過ごされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○全体にゆったりとした雰囲気、利用者のテンポに合わせた生活リズムである。
 ○法人内に喫茶室や展望浴場があり、自由に出かけている。ホーム内にも温泉が引かれ、いつでも入浴を楽しむことができる。
 ○職員の仲が良く、向上心があり、資格取得のために自主的に学んでいる。また、職員が種々の能力を持ち、音楽療法や理学療法、緩和ケア・口腔ケアなど随時必要に応じて対応されている。
 ○前回の改善が具体的にされており、外出支援を積極的に取り組んでいる。
 ○一人ひとり自分らしい居室で、家族の思いや個性を取り入れている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	運営理念をエレベーター内、ホール、職員室などに掲示しており、いつでも目について日頃より理念を意識して実践を行える様になっている。	エレベーターや洗面所の見やすいところに理念を掲示し、誰もがいつでも見られるようにしている。地域との交流や、一人ひとりを尊重した支援に取り組んでいる。次のステップに向け見直し検討中である。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに毎年参加して、地域住民の踊りの輪に入り踊られたり、会話されたりしている。	近所からの差入れがあり、また地域の人と交流できるコンサートや祭りが開かれている。幼稚園児との交流も楽しんでいる。また地域に開かれた講演会により、参加者の認知症ケアについての理解を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に住まれている認知症の方を受け入れ、支援している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し、そこでの意見を参考にサービス向上に努めている。	定期的に行われ、活動の報告や情報提供など行っている。市役所の参加はないが地域包括支援センターの参加があり意見が出されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センター職員に参加して頂き、サービス内容の状況や取り組み等の報告をしている。外部評価の結果などを市役所へ提出している。	グループホーム協議会の研修に来てもらい、ケアについて話し合い、相談やアドバイスを受けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を防ぐ為、夜勤者が1人体制時のみ、やむを得ずエレベーターの施錠をしている。その他身体拘束は行っていない。ユニットの勉強会でも取り上げている。	計画的に研修をしている。拘束の内容や弊害について職員は理解しており、適切なケアになるよう話し合っている。エレベーターも閉塞感を感じないよう花の飾りをつけたり、暖簾を使うなど工夫をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止ポスターを貼り意識を高めている。又、身体のおざ等を発見した際は、すぐに他職員へ報告、申し送りしている。		

事業者名: グループホーム愛・愛 (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修を実施し、権利擁護について学び一般職員へも周知している。それらを活用し支援出来るよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、納得されるよう質問等には十分な説明をして、理解が得られるように誠意を持って取り組んでいる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に二回家族会を開いている。又は面会時等その都度意見・要望を聞いている。年に一回アンケートをとり、意見を反映するため、委員会にて話し合いを行っている。	家族会で家族の時間をもち意見を出し合ってもらっている。また、アンケートも実施し、家族・本人の要望を聞き取り、ケアや介護計画に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内会議や全体会議にて意見や提案を聴く機会を設けている。	ユニット会議で職員は積極的に意見を出し、ケア・環境など職員の案を取り入れている。管理者や上司に対して意見を出しやすい雰囲気がある。法人内の連携も上手くできており、利用者の生活に活かされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段より、職員の勤務状況を把握し、成果が認められる場合は昇給、昇格を行っている。業務改善委員会を中心に職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を職員間で回覧し必要な研修へ参加している。院内研修への参加や内部研修以外に外部講師へ依頼し、常に自己研鑽に努められる機会を作り、個別に教育ファイルを設け職員1人ひとりの把握を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会での年4回の研修に職員が参加し、他のグループホームと交流をし情報交換を行って、サービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	所属長、管理者とで本人と事前に面談をし、不安や要望などに対して傾聴する。聴いた内容を他職員へ周知してサービスへ活かしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	所属長、管理者とで本人と事前に面談をし、不安や要望などに対して傾聴している。聴いた内容を他職員へ周知してサービスへ活かしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族が必要としている支援を見極め対応するよう努めている。実際に利用者の状態に応じて他の介護保険事業者へと変更になったケースもある。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒におやつを作ったり食事の盛り付けをしたり、ゴミ捨てに行く等個々の能力に応じたことを一緒に行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一ヶ月に一回ケア報告書を作成し、本人の状態をお知らせしている。又、面会時にも近況報告を行うと共に、家族のニーズを伺い対応している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしていない。昔のなじみの方が時々面会に来られたり、手紙や年賀状などが届く人もいて、お礼の電話を掛けたりしている。	友人や馴染みの関係者が気軽に訪れたり、馴染みのレストランに食事やお茶に出かけたり、足湯や神社などにも出かけたり、法人内の展望温泉や売店に行くなど、自由な生活を楽しんでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後の片付けの際に、出来ることを皆でコミュニケーションを取りながら協力して行える様、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退去となった方に対してお見舞いに伺っている。退去後も事務所へ来られて、本人の近況報告をして下さる家族がいる。必要に応じて本人の経過をフォローし、支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が、日頃より希望や志向を話しやすい雰囲気作りに努めており、出来るだけケアプランに反映できるようにしている。	センター方式を利用し、その人らしい情報を得て、ケアに反映している。本人や家族からも細かな情報を聞き取り、ケアプランに盛り込んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話やご家族への聞き取りの中からの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々行動を記録に残し、誰もが把握出来るように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一回カンファレンスを行い、日常生活での課題を協議し、個々に応じたプラン作りをしている。家族には面会時に意見やアイデアを聞くように努めている。	毎月モニタリングを行い、状況に応じてプラン変更をしている。家族や本人と事前に話し合い、3か月ごとにカンファレンスを開き、意見を出し合い介護計画を作成している。昼間と夜間の計画をつくり、支援方法を具体化している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテに昼夜を通して記録をしている。朝夕の申し送りやその他でもケアの実践や結果、気づき等を話し合い情報を共有して実際のサービスに反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と本人のニーズに答えるために、一緒に買い物に行ったり、外出の機会を増やす為に、少人数で夕食やドライブ等に行ったりしている。		

事業者名: グループホーム愛・愛 (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、地域包括支援センター、民生委員の方に参加して頂き、利用者との交流を行ってもらおうと共に、貴重な意見を頂き参考にしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は、併設病院に主治医があり、随時相談に応じてくれ、適切な医療が受けられる。他のかかりつけ医へ受診される方も家族や職員にて付き添いをし、適切な支援を受けられるよう支援している。	家族や本人の希望のかかりつけ医を利用している。訪問歯科や併設病院と連携ができており、日常的な支援が行われている。日常生活の中で理学療法にも取り組んでいる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニットの看護職員に日常の様子を伝え、必要な支援が受けられる様にしている。その他併設病院の看護職員とも連携し、適切な受診や相談等支援をしてもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関する情報の交換は、医療ソーシャルワーカーや看護師、主治医と行き、入院中の情報や退院の見通しなど具体的に検討している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族等と今後の支援のあり方を相談し、事業所で出来ることは行い医療機関と連携を取り、支援している。	状況に応じて家族や本人と話し合い、適切かつ希望に応じた支援体制ができています。グループホームで出来る限り支援を行い、医療が必要な場合は、日頃から連携がとれている母体病院につないでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はグループホーム連絡協議会での研修にて心肺蘇生法とAEDの使い方を多数の職員が教わった。今後も定期的に訓練を継続していきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消火訓練を行っているが、地域との協力体制は隣接した法人社宅住居者及び病院職員という状況である。	年2回の訓練を実施している。夜間想定も行い、避難誘導も具体的に検証をしている。津波に対しての避難箇所も隣接地にあり、備蓄も完備されている。地域と協力した取り組みも計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状況や性格に合わせた言葉かけを心掛けている。	人格の尊重を理念に掲げ、言葉かけや対応に気を付けている。研修も開催し、一人ひとりを大切にした支援を基本としている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を出来るだけ選択性にして、自己決定できる場面をより多く提供出来る様に心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大事にし、希望に添えるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を染めたり、パーマをかけることも自由であり、毎日お化粧をされている方もいる。月に一度化粧をする日をもうけ、皆がおしゃれ出来るように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に和やかに食事をされており、個々の能力に応じ、食事の準備や片付けも職員と一緒にしてもらっている。	配ぜんやテーブル拭き・食事をとりに行くなど、できることを職員と一緒にしている。職員が同じテーブルにつき、話をしながら食事をし、家庭的な雰囲気である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、栄養バランスの摂れた食事を提供しており、体重増加傾向の人は、食事量の調整を行い、水分摂取の少ない人には、イオンゼリーを提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夜の食後には、必ず声掛けをし、個々に合った口腔ケアを行っている。訪問歯科も利用しており、口腔内の定期チェックが出来ている。		

事業者名: グループホーム愛・愛 (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握の為、排泄チェックをし時間毎の声掛けや誘導をしている。また本人の体動や表情を見逃さないように、トイレ誘導を行っている。	排泄パターンを把握して、トイレサインを見逃さず、自立した排泄の継続に力を入れている。おむつの使用もできるだけ少なくし、さりげないトイレ誘導をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂るように促したり、食事の際に食物繊維やおやつ時にヨーグルトなどを取り入れる様にしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能であるが、午前中の希望がない為午後からの入浴が主となり、入浴をしていない期間が長期にならない様にしている。時には併設病院、最上階の大浴場で景色を見ながら入浴を楽しまれている。	温泉が引かれており、毎日入浴可能である。2・3日に1回の希望が多く、時間帯も要望に応じている。拒否者に対しても楽しく入れるよう、タイミングや言葉かけなど工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下にソファを置き、休息の場を設けている。枕や布団を個人で持参されている方もいる。お天気の良い時は部屋のベランダに布団を干して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をカルテに綴じて、いつでも確認出来るようにしている。症状の変化は記録に残し、主治医又は出勤医師に報告や相談をし、指示を仰いでいる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ出来る事は行って頂いている。毎日レクリエーションを企画して行い、音楽療法は週一回、併設病院で毎月行われているサロンコンサートへも出掛けたりしている。又、少人数での外出も行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関前で育てている野菜の水遣りを行ったり、近くの店に買い物に行くこともある。少人数でドライブや外出にも出掛けて、年二回はバスハイクを企画し、普段行けないような場所にも行ける様な支援をしている。バスハイクでは家族の協力も得ている。	毎日の給食室からの食事運搬や、庭先の花見、法人内の展望温泉利用などの支援を行っている。また、足湯・買い物・食事・個別のドライブに出かけている。バスハイクも定期的に計画され、家族と楽しく過ごしている。	

事業者名: グループホーム愛・愛 (2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所で預かっているが、必要な時にはいつでも利用者が所持し、使用出来る様になっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を即事に届けている。希望があれば、手紙を書くための準備を行っている。手紙のお礼は電話を掛ける利用者が多い。本人が希望される時は電話を掛けるのに必要な支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下にはカレンダーや季節毎の飾り付けをしたり、花を飾るなどをしている。ホールは日当たりが良い為、遮光カーテンを使用し眩しすぎないようにしている。今年の夏には壁掛け扇風機を取り付け、クーラーと併用し温度管理を行った。	自分たちで書いた書や手作りの人形、観葉植物を居間の窓辺に飾り、ゆったりと過ごし、会話している。廊下が広く、個別の学習療法などを陽だまりで行っている。キッチンも広く、明るい開放的な空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にソファを置いてゆったり出来る場を設けている。ホールと居室の行き来も自由に行き、利用者同士思い思いに過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持ち込みの制限はない。本人が心地よく過ごせるように本人や家族の意向を重視している。	使い慣れた家具や家族の思いのこもったもの、家庭的なテーブルや椅子などその人らしい部屋になっている。好みの服を見やすいようハンガーに飾り、化粧品や鏡もあり自分の家のような雰囲気作りをし、過ごしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、トイレや居室のドアに目印を付ける等の工夫をし、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470200991		
法人名	医療法人社団 春日会		
事業所名	グループホーム愛・愛(3F)		
所在地	別府市照波園町14番28号		
自己評価作成日	平成23年11月12日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、病院に併設しており、日常の健康管理と急変時の対応等病院スタッフと密に連携を取っています。普段の生活の中では、音楽療法士が週1~2回介入しており、昔懐かしい歌等を皆さんで唄ったり、楽器に触れて演奏を行うことで情動の発散や社会性の維持向上が図れている。又、転倒予防・下肢筋力低下防止に取り組んでおり、理学療法士が1人1人の身体状況を把握して、週1回体操や運動の指導を行なっている。共用型のデイサービスを行っている事で、入居者とデイサービスの利用者が馴染みの関係になり、レクリエーションや会話を楽しまれている。1人ひとりが生き生きとした生活を送って頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム愛・愛(2F)に記載】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をエレベーター内、ホール、職員室などに掲示しており、いつでも目について日頃より理念を意識して実践を行える様になっている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに毎年参加して、地域住民の踊りの輪に入り踊られたり、会話されたりして交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	病院事業等に広告を載せたり、デイサービスの実施を通して、地域の方々が認知症の方を理解して頂ける様に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し、そこでの意見を参考にしてサービス向上に努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センター職員に参加して頂き、サービス内容の状況や取り組み等の報告をしている。外部評価の結果などを市役所へ提出している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を防ぐ為、夜勤者が1人体制時のみ、やむ得ずエレベーターの施錠をしている。その他身体拘束は行っていない。ユニットの勉強会でも取り上げている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間にて世間で起きていること等を話し合い、虐待が見過ごされる事の無い様、身体観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修を実施し、権利擁護について学び一般職員へも周知している。それらを活用し支援できるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、納得されるよう質問等には十分な説明をして、理解が得られるように誠意を持って取り組んでいる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などで意見を聞いたり、面会時に日々の生活での要望や意見を聞くようにしている。年に一回アンケートを取り、意見を反映するため、委員会にて話し合いを行っている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内会議や全体会議にて、意見や提案を聴く機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段より、職員の勤務状況を把握し、成果が認められる場合は昇給、昇格を行っている。業務改善委員会を中心に職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修やその他研修には、積極的な参加を勧め参加している。外部講師を招いての研修の場も設けている。個別に教育ファイルを設け職員1人ひとりの把握を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会主催での年4回の研修職員が参加し、他のグループホームと交流をし情報交換を行って、サービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望の段階で、本人や家族の思い、施設に対しての要望、今後、どのようなケアが一番望ましいのか話し合いを行い、信頼関係を作っていくよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望の段階で、本人を支えてきた家族の思いに傾聴し、困っている事や不安な事など受け入れやすい関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、どのようなサービス提供が一番適しているのかを見極め、より豊かな生活が出来る様な、他のサービスも取り入れ支援出来るよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内での役割を分担したり、共同作業をしたりして共に過ごす上で支えあう関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに耳を傾け、家族と職員が同じ思いで本人を支えていける様に、常日頃からコミュニケーションを図り関係づくりをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに生活してきた背景を知り、大切にしてきた事が、出来るだけ継続出来るよう支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員の和を考え、レクリエーションを共に楽しんだり、楽しい雰囲気洗濯物をたたんだりしながら、関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退去となった方に対してお見舞いに伺っている。退去後も事務所へ来られて、本人の近況報告をして下さる家族がいる。必要に応じて本人の経過をフォローし、支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく生活して頂くため、思いや日常生活自立度を把握し、本人が生活しやすい環境づくりに努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話やご家族への聞き取りの中からの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の活動や心身状態等を記録に残し、申し送り用紙に記入し、全員が把握出来るよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ユニット会議を行い、利用者全員のケアのあり方について意見を出し合いより適切なプランの作成に努めている。又、毎月家族にケア報告書を送付し、意見を家族に聞き介護計画に反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を通して、朝夕の申し送りの中で必要な情報を職員全員が共有する事で、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、帰宅欲求や落ち着かない利用者の方に対して、外食やドライブ、デイサービスの送迎等に誘い気分転換を図ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、地域包括支援センター、民生委員の方に参加して頂き、利用者との交流を行ってもらおうと共に、貴重な意見を頂き参考にしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は、併設病院に主治医があり、馴染みの関係が出来ている。専門医受診希望の時はスタッフも同行したりして支援している。歯科往診も利用し、口腔内のケアも行っている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で利用者の変化に気づいた時は、外来看護師に相談したり、グループホーム内の看護師に相談したりして、適切な対応に心掛けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と相談した上で、よりよい治療が出来るよう病院にホームでの状況説明をして、病院関係者との協働に努めている。退院についても円滑に進むよう病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族等と今後の支援のあり方を相談し、事業所で出来ることは行い医療機関と連携を取り、支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度はグループホーム連絡協議会での研修にて心肺蘇生法とAEDの使い方を多数の職員が教わった。今後も定期的に訓練を継続していきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消火訓練を行っているが、地域との協力体制は隣接した法人社宅住居者及び病院職員という状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、状況に合わせた言葉掛けで対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人がやりたい事等を聴いて、レクリエーションの内容を決めたり、入浴時間を相談して決定する等本人の意志を尊重するよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムなど、一人ひとりのペースを大切にして、穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事によっては、お化粧品などの援助をしたり、本人の希望によって髪を切ったり、パーマをかけたり洋服を選ぶ援助も行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に和やかに食事をされている。個々の残存能力を活かし、食事の後片付けや、テーブル拭きを職員と一緒にしてもらっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族が持参されるおやつ等の摂取も考えながら、栄養バランスに配慮すると共に、食事量の調整や水分摂取量の調整を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夜の食後には、必ず声掛けをし、個々に合った口腔ケアを行っている。訪問歯科も利用しており、口腔内の定期チェックが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや行動でトイレサインを見逃さず声掛け誘導を行い。能力に合わせ自立支援を実施。介助が必要な方には、随時声掛けを行い排泄習慣を身に付け、排泄の失敗を最小限度にするような支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の1日の摂取量を把握しており、少ない場合は摂取を促す。普段より食物繊維質の物や乳製品を提供する等をして自然排便を促している。過度の便秘の方は主治医に相談し対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望される方には毎日入浴して頂き、入浴を嫌う方には、無理に勧めず声掛けに工夫し、なるべく入って頂くような支援を行っている。時には、併設病院、最上階の大浴場で景色を見ながら入浴を楽しまれている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活を重視し、テレビを見ながら眠る習慣のある方に対しては消灯確認をしたり、眠れない時にはホールにお誘いし、傾聴したり、飲み物を提供したりして、気持ち良く安眠出来るよう工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに病名や薬事情報が保管されており、薬の変更があったときには、職員全員に伝達し記録をしている。服用後の状態観察を行い、医師に報告し、適切な支援が出来るよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ出来る事は行って頂いている。毎日レクリエーションを企画して行い、音楽療法は週一回、併設病院で毎月行われているサロンコンサートへも出掛けたりしている。又、少人数での外出も行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	下肢筋力の低下防止も含め、個人の必要な品物を利用者の方と買い物に出掛けたり、時にはファミリーレストランでおやつを食べたりしている。年二回のバスハイク時は家族にも参加して頂き、協力してもらっている。		

事業者名: グループホーム愛・愛(3Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所で預かっているが、必要な時にはいつでも利用者が所持し、使用出来る様にしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には、職員が付き添い一階の公衆電話を利用したり、手紙は預かり送ったりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内での行事の写真や個人の作品などを廊下に貼ったり、家族から頂いたお花を飾り、職員と一緒に水遣りを行っている。トイレも分かりやすいように、大きな文字で表示して混乱しないようにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にソファを置き、ゆったりと出来る空間を設けて思い思いに過ごせるような居場所を作っている。利用者の日頃の言動等に耳を傾け、気の合う利用者同士に隣に座って頂いたり工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限はない。自宅で使用していた家具、家族が本人の意志と好みに合わせて購入された物を自由に置かれており、子供や孫の写真をタンスの上や壁に掛けられている。本人や家族の意向を尊重している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	医療安全レポートを活かし、安全かつその人らしく生活出来るような工夫を、毎月のユニット会議等で話し合い、自立した生活への支援を行っている。		